

第2章

栃木県の保健・医療の現状

1 人口の動向

2 受療の状況

3 医療資源の状況

4 医療費の状況

第2章 栃木県の保健・医療の現状

1 人口の動向

(1) 総人口

本県の総人口は、昭和30年代以降ほぼ一貫して増加が続き、平成9(1997)年9月に200万人に到達しました。その後はほぼ横ばいで推移していましたが、平成17(2005)年をピーク(2,017,664人)に減少傾向が続いており、平成24(2012)年10月現在で1,993,386人となっています。

現在のような傾向が続けば、本県の人口は平成37(2025)年には約188万人、平成47(2035)年には約174万人に減少すると予測されています。

(2) 年齢階層別人口

昭和60(1985)年頃は、4人に1人が年少人口(0~14歳)、10人に1人が老年人口(65歳以上)という割合でしたが、その後、平均寿命の延伸と出生率の低下により高齢化が進み、平成10(1998)年には老年人口が年少人口を上回る幼老逆転の状況が生じ、以降その差が拡大し続けており、平成24(2012)年10月現在では、年少人口の割合が13.3%、生産年齢人口(15~64歳)の割合が63.5%、老年人口の割合(=高齢化率)が23.2%となっています。

今後更に年少人口及び生産年齢人口の減少と老年人口の増加が進み、平成47(2035)年には老年人口の割合が34%近くに達すると予測されています。

また、本県の後期高齢者人口(75歳以上)は、平成24(2012)年の22.6万人から団塊の世代が75歳に到達する平成37(2025)年には32.2万人と大幅に増加することが予想されています。

従属人口指数^{※1}は平成24(2012)年の57.48から平成37(2025)年には69.74となることが予想されており、働き手である生産年齢人口が年少人口と老年人口を支える人数は2人で1人という状況から3人で2人という状況へと上昇することが予想されています。

高齢化率を二次保健医療圏別で見ると、県西保健医療圏で26.5%、両毛保健医療圏で26.4%となっており、県西部で高齢化がより進んでいる傾向が見られます。

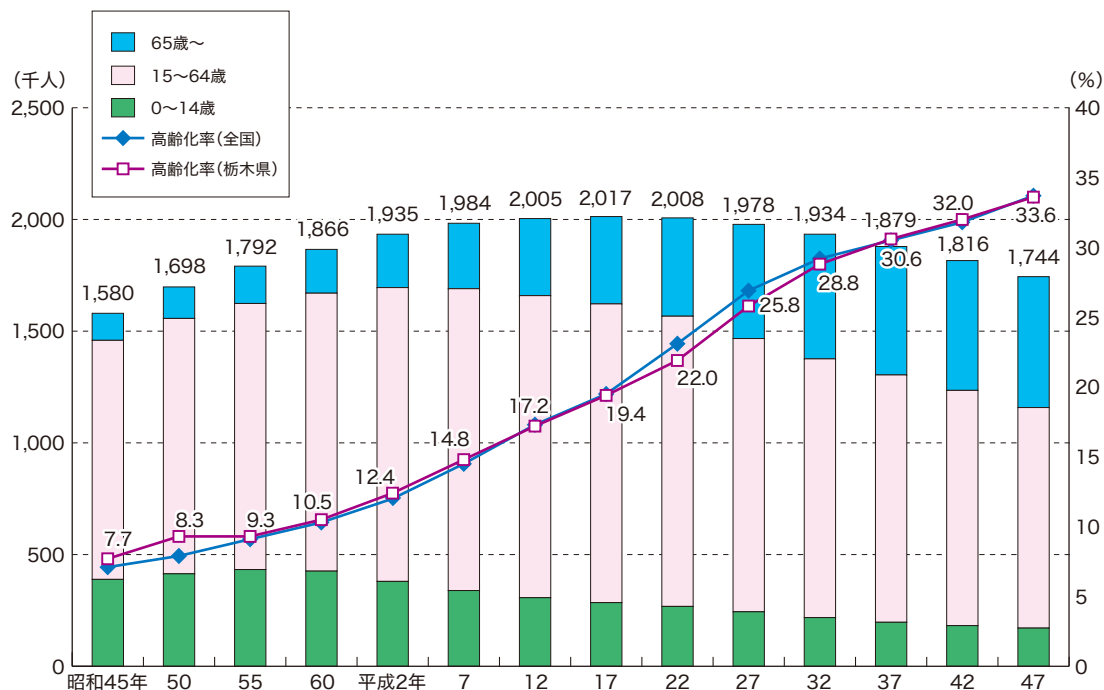
※1 [(年少人口+老年人口)/生産年齢人口]×100で算出され、年少人口及び老年人口に対する生産年齢人口の扶養負担度を示す。

二次保健医療圏別人口構成(平成24年10月1日現在)

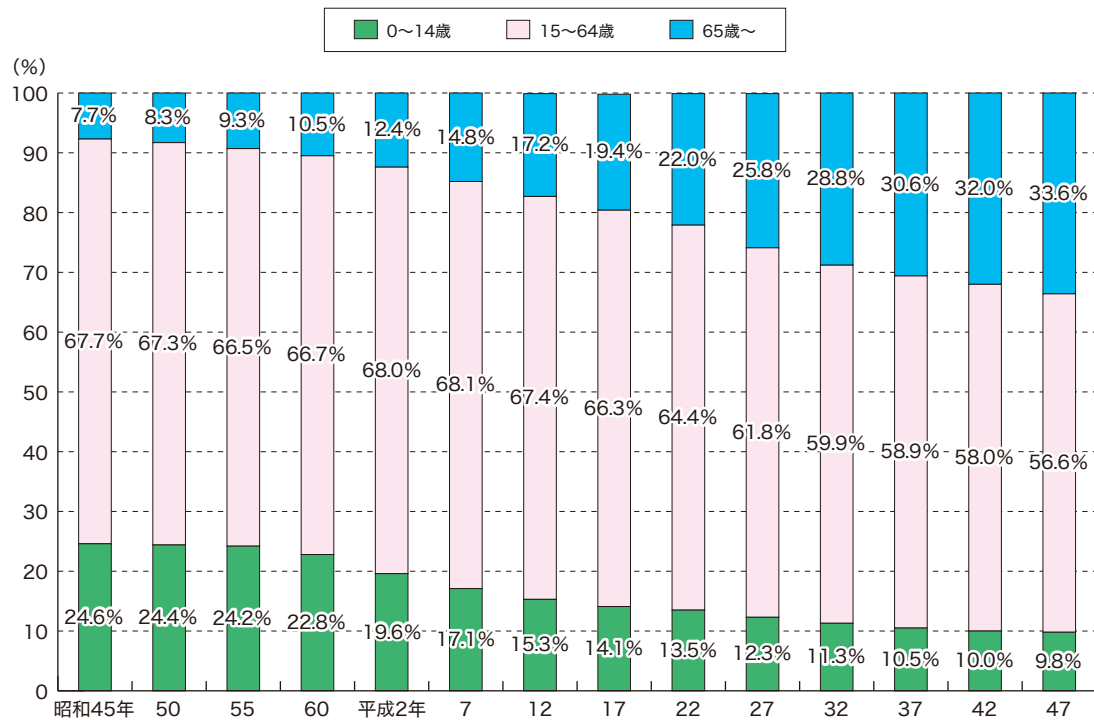
区 分	総 数	男	女	0～14歳	15～64歳	65歳以上	高齢化率
県北保健医療圏	387,998	194,732	193,266	50,180	244,747	90,484	23.5
県西保健医療圏	188,505	92,435	96,070	22,875	114,387	49,407	26.5
宇都宮保健医療圏	514,798	256,212	258,586	71,152	328,216	105,372	20.9
県東保健医療圏	147,428	73,628	73,800	20,051	93,319	33,995	23.1
県南保健医療圏	482,270	239,684	242,586	64,754	307,525	107,276	22.4
両毛保健医療圏	272,387	133,196	139,191	33,784	165,925	71,547	26.4
総数	1,993,386	989,887	1,003,499	262,796	1,254,119	458,081	23.2

【資料:栃木県県民生活部統計課「平成24年栃木県の人口-栃木県毎月人口調査報告書(年報)-」から作成】
 ※年齢3区分の欄の数は、年齢不詳を除いた数である。

本県の人口・将来推計人口及び高齢化率の推移



(構成比)



【資料：昭和45年から平成22年までは、国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2012版」(出典：総務省統計局「国勢調査」)、平成27年から平成42年までは、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口－平成19年(2007)年5月推計－」から作成】

(3) 出生

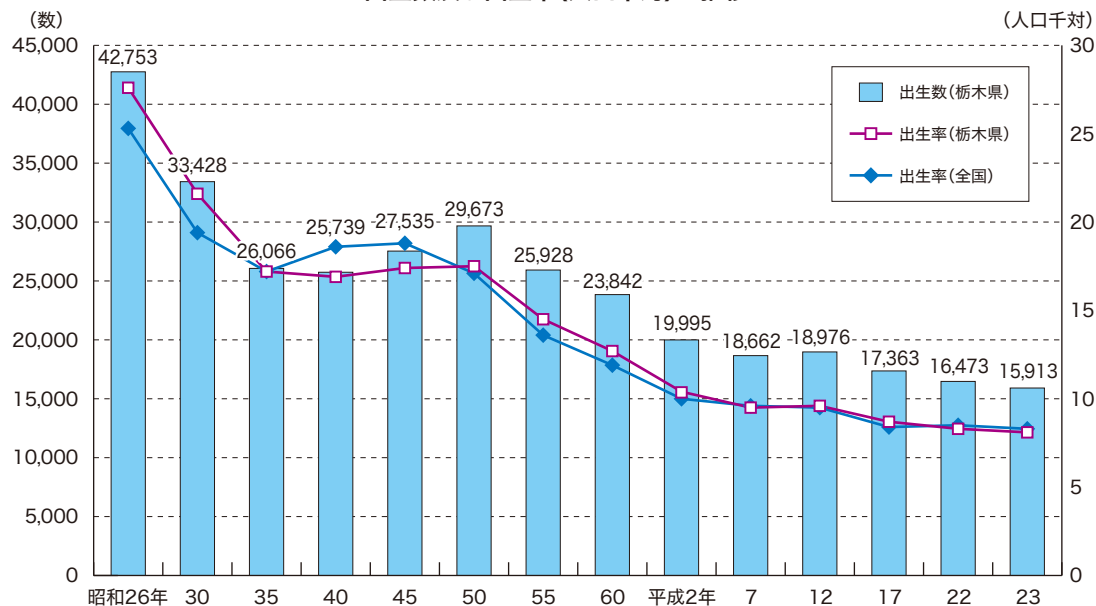
平成23(2011)年の本県の出生数は15,913人で、出生率(人口千対)は8.1(全国8.3)となっています。

合計特殊出生率^{※2}は、昭和50(1975)年には2.06(全国1.91)でしたが、その後急速に低下し、平成23(2011)年には現在の人口を維持するのに必要な水準である2.08を大きく下回る1.38(全国1.39)となっており、少子化が顕著に進行しています。

出生率を二次保健医療圏別で見ると、宇都宮保健医療圏で9.2となり県全体の値を上回っているほかは、いずれの保健医療圏でも県全体の値を下回っています。

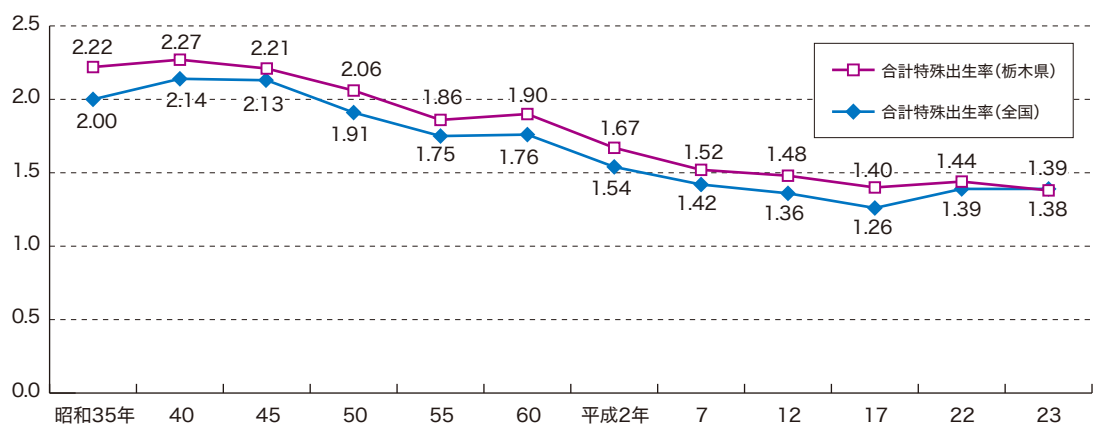
※2 15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に産むとしたときの子どもの数に相当する。〔母の年齢別出生数／年齢別女子人口〕

出生数及び出生率(人口千対)の推移



【資料:厚生労働省「人口動態調査」】

合計特殊出生率



【資料:厚生労働省「人口動態調査」】

全国、栃木県、二次保健医療圏別の出生、死亡、乳児死亡、新生児死亡、死産、周産期死亡の状況(平成23年)

区分	出生(人口千対)		死亡(人口千対)		乳児死亡(出生千対)		新生児死亡(出生千対)		死産(出産千対)		周産期死亡(出産千対)	
	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率
県北保健医療圏	3,043	7.8	4,187	10.7	5	1.6	1	0.3	69	22.2	10	3.3
県西保健医療圏	1,322	6.9	2,306	12.1	6	4.5	2	1.5	33	24.4	8	6.0
宇都宮保健医療圏	4,731	9.2	4,171	8.1	9	1.9	4	0.8	105	21.7	17	3.6
県東保健医療圏	1,150	7.7	1,698	11.4	3	2.6	2	1.7	31	26.2	3	2.6
県南保健医療圏	3,777	7.8	4,766	9.9	12	3.2	6	1.6	110	28.3	20	5.3
両毛保健医療圏	1,890	6.9	3,341	12.2	3	1.6	1	0.5	45	23.3	12	6.3
栃木県	15,913	8.1	20,469	10.4	38	2.4	16	1.0	393	24.1	70	4.4
全国	1,050,806	8.3	1,253,066	9.9	2,463	2.3	1,147	1.1	25,751	23.9	4,315	4.1

(4) 死亡

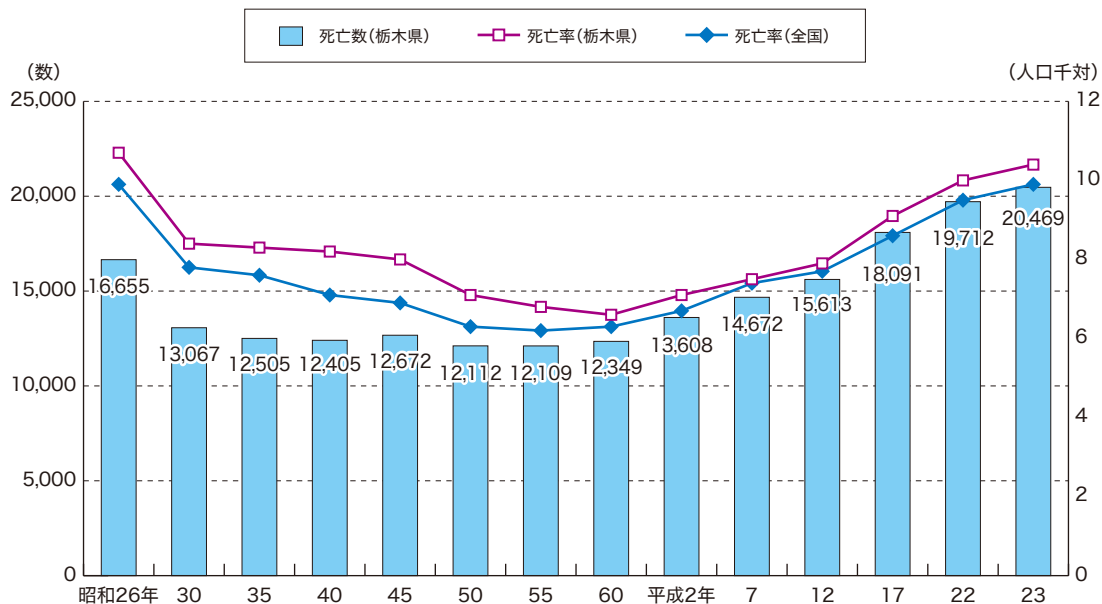
平成23(2011)年の本県の死亡数は20,469人で2万人を超え、また、同年の出生数を上回りました。

粗死亡率(人口千対)は、昭和62(1987)年に6.3まで低下した後、ゆるやかに上昇しながら推移してきており、平成23(2011)年は10.4(全国9.9)となっています。

平成23(2011)年において、新生児死亡率^{※3}は全国平均を下回りましたが、乳児死亡率^{※4}、周産期死亡率^{※5}、死産率^{※6}は全国平均よりも高い数値となっています。

死亡率を二次保健医療圏別で見ると、両毛保健医療圏で12.2、県西保健医療圏で12.1となっており、県西部で高い傾向が見られます。

死亡数・率の推移



【資料：厚生労働省「人口動態調査」】

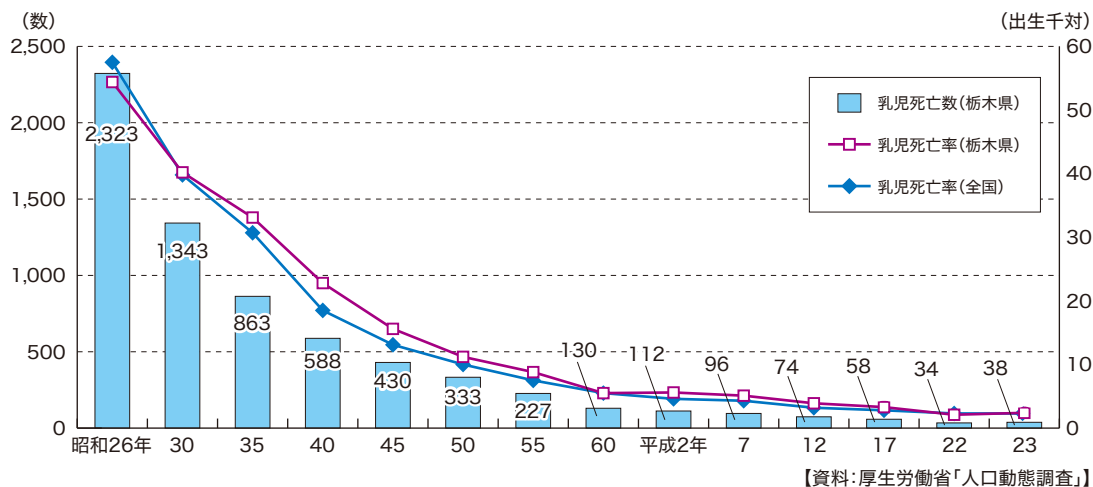
※3 出生千に対する生後28日未満の死亡数の比率。

※4 出生千に対する1歳未満の死亡数の比率。

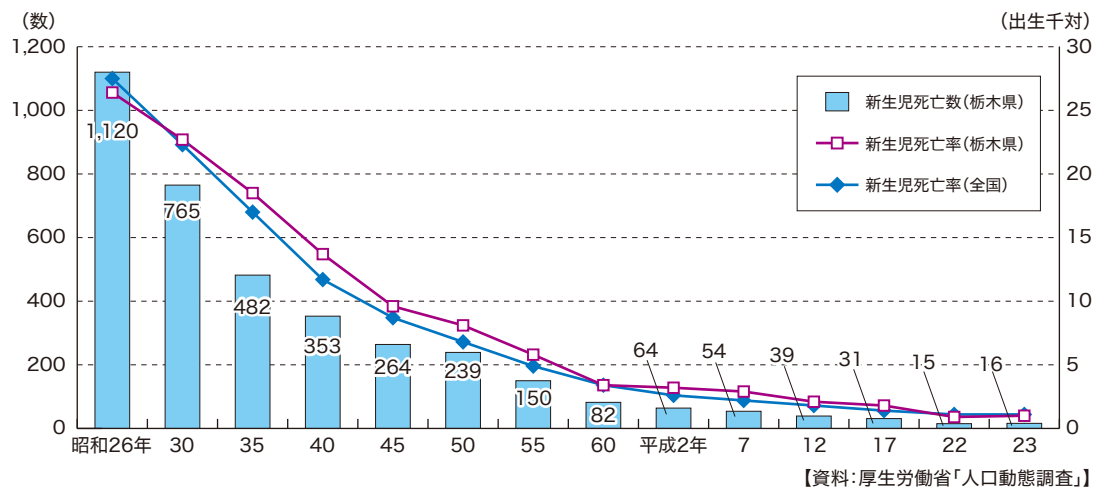
※5 出産数(出生数+妊娠満22週以降の死産数)千に対する妊娠満22週以降の死産に生後7日未満の早期新生児死亡を加えた数の比率。

※6 出産千に対する妊娠12週以後の死児の出産数の比率。

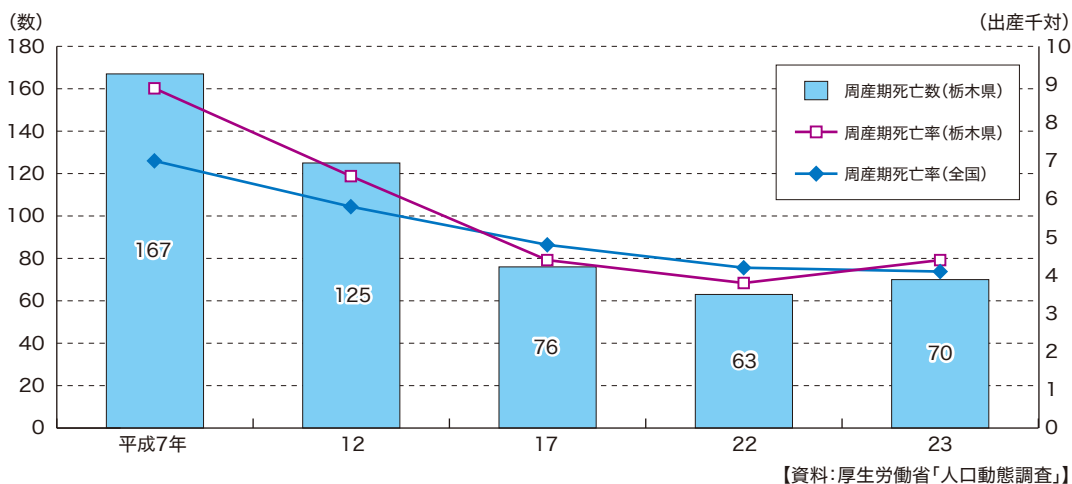
乳児死亡数・率の推移



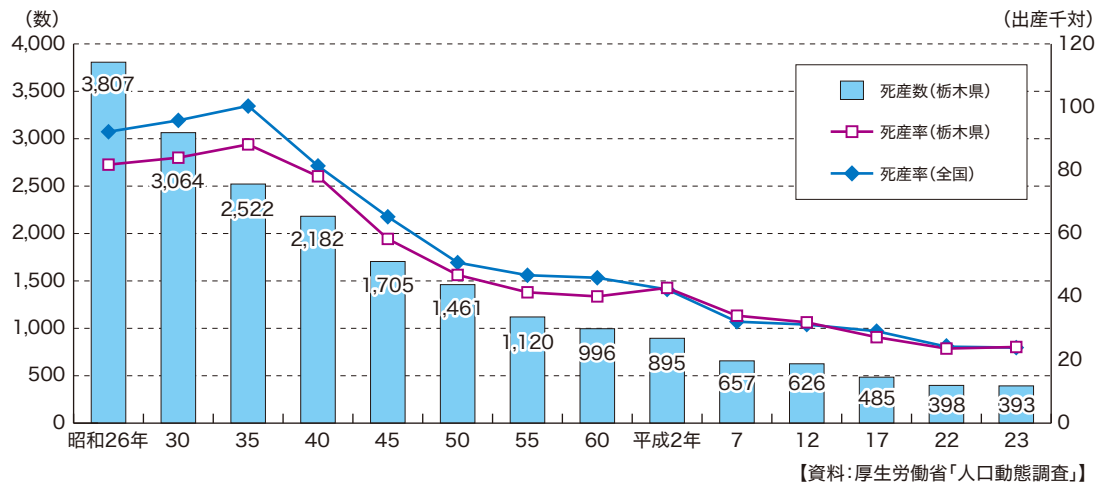
新生児死亡数・率の推移



周産期死亡数・率の推移



死産数・率の推移

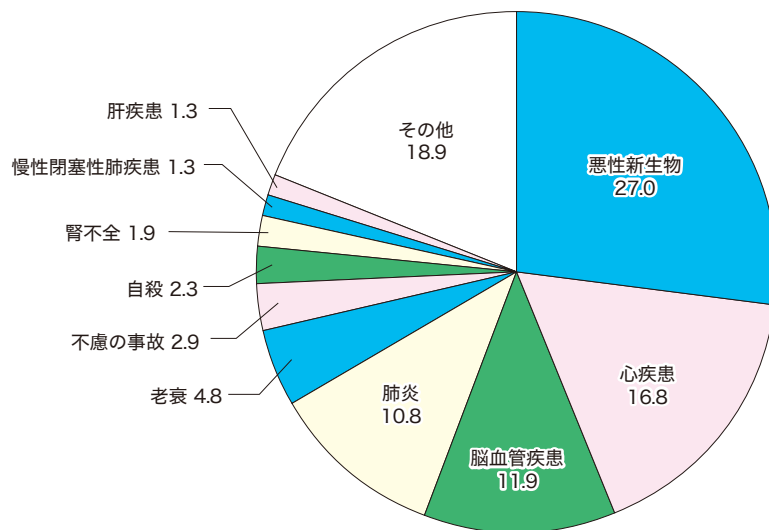


平成23(2011)年の本県における死因の順位(構成比)は、第1位悪性新生物(27.0%)、第2位心疾患(16.8%)、第3位脳血管疾患(11.9%)となっており、これらの三大死因による死亡が本県総死亡数の6割弱を占めています。

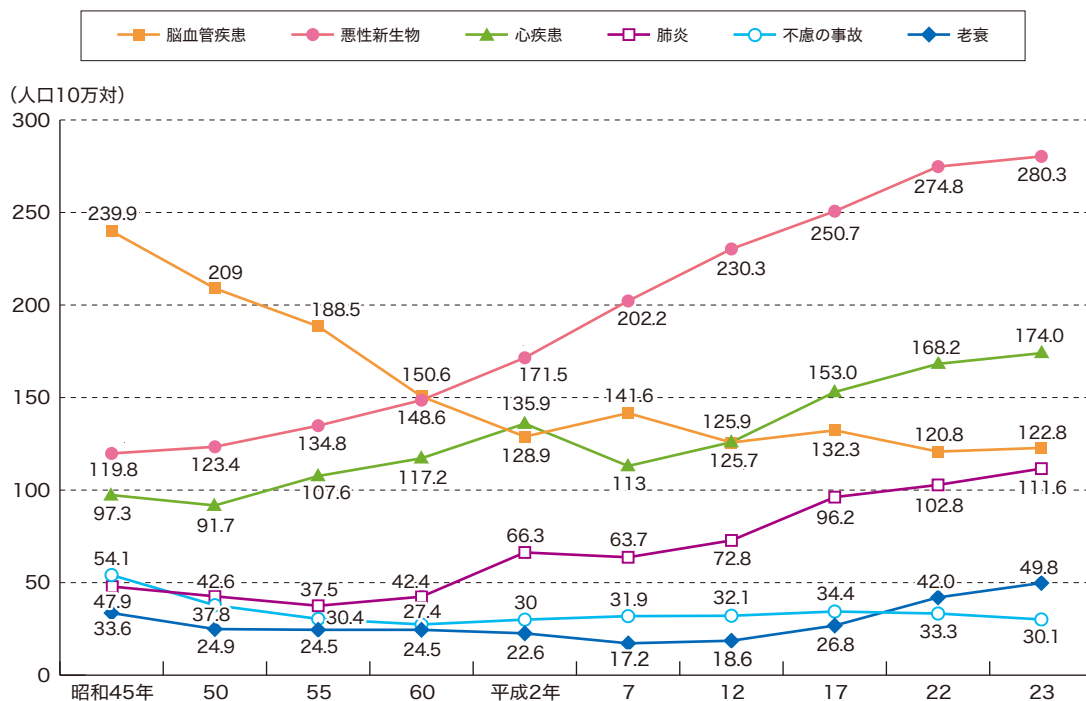
年次推移を見てみると、悪性新生物は増加傾向、心疾患は微増傾向、脳血管疾患は減少からここ数年横ばいの傾向となっています。

また、肺炎が増加傾向にあり、全国では脳血管疾患を上回り死因の順位の第3位、本県では脳血管疾患に次いで第4位(10.8%)となっており、また、本県における肺炎による死亡総数の9割近くが75歳以上となっています。

本県における主要死因別死亡数の構成割合(平成23年)



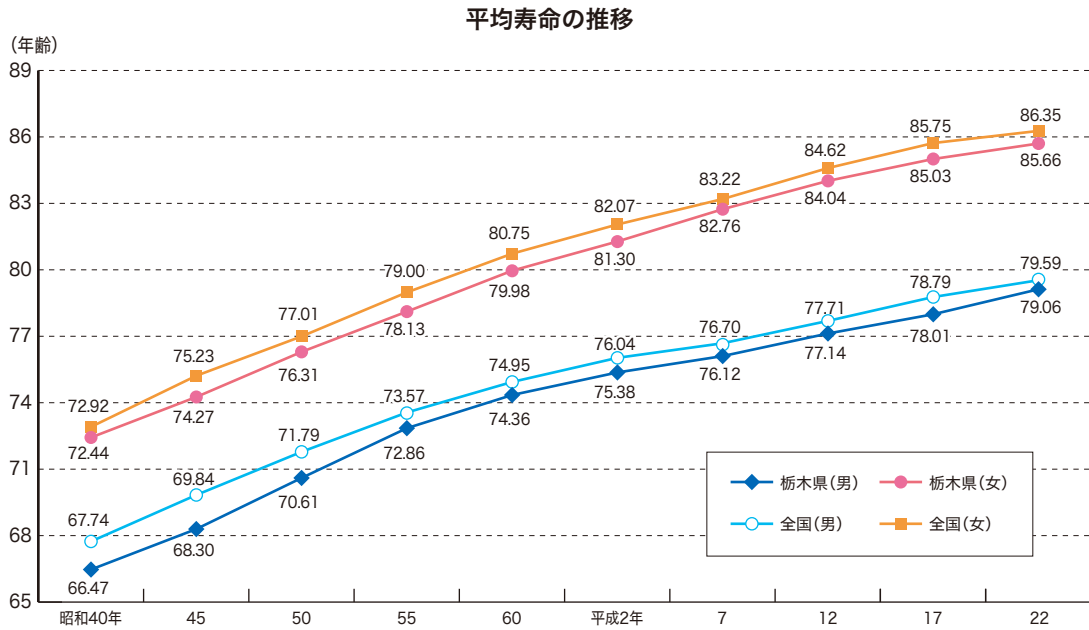
本県における主要死因の推移



【資料：厚生労働省「人口動態調査」】

(5) 平均寿命

本県の平均寿命は男女とも着実に伸びていますが、昭和40(1965)年以降、全国
値を下回っています。



【資料：厚生労働省「都道府県別生命表」】

2 受療の状況

(1) 患者数

平成23年に実施した栃木県医療実態調査によると、調査日(平成23(2011)年10月11日(火)から13日(木)までの3日間のうち、診療日の1日を医療機関ごとに設定)の県内患者数(歯科診療所を除く。)は、総数112,002人でした。

病院・一般診療所別では、病院が40,525人(36.2%)、一般診療所が71,477人(63.8%)となっています。

入院外来別では、入院が18,354人(16.4%)、外来が93,648人(83.6%)となっています。

性別では、男性が49,444人(44.1%)、女性が62,393人(55.7%)、不明が165人(0.2%)となっています。

年齢階級別では、0歳～14歳が15,233人(13.6%)、15歳～64歳が44,988人(40.2%)、65歳以上が51,165人(45.7%)、不明が616人(0.5%)となっています。65歳以上の入院患者は11,545人で、全体の62.9%を占めており、また65歳以上の外来患者は39,620人で、42.3%を占めています。

二次保健医療圏別では、どの圏域でも50歳以上の患者数が多くなっています。

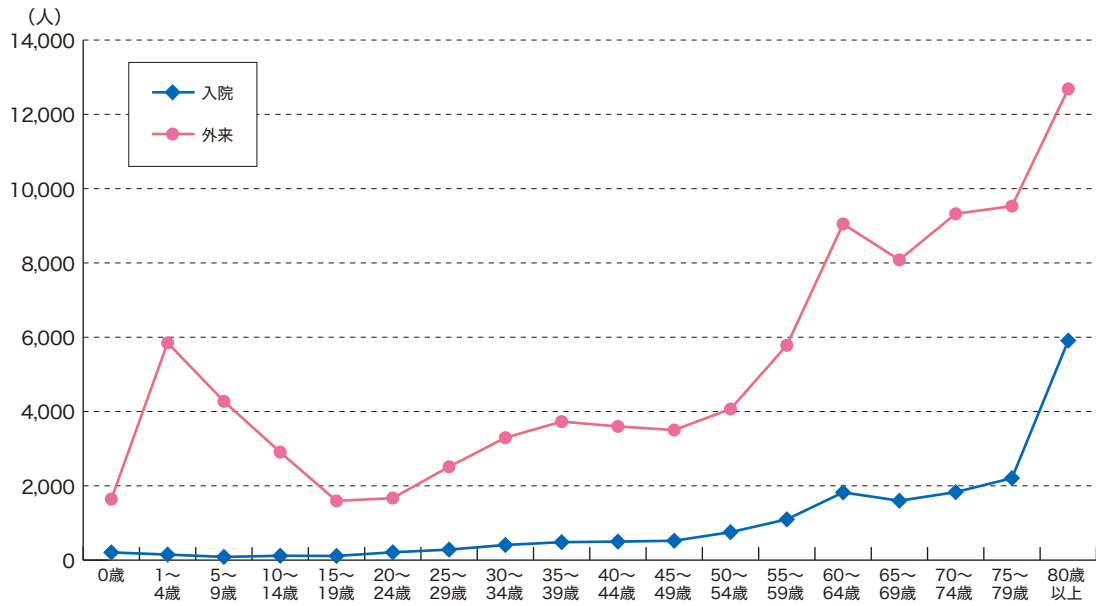
病院診療所別、入院外来別、性別、年齢階級別患者数

(単位:人)

区分	総数			病院			診療所		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	112,002	18,354	93,648	40,525	17,481	23,044	71,477	873	70,604
【性別】									
男	49,444	8,791	40,653	19,580	8,514	11,066	29,864	277	29,587
女	62,393	9,533	52,860	20,896	8,943	11,953	41,497	590	40,907
不明	165	30	135	49	24	25	116	6	110
【年齢階級別】									
0歳	1,850	208	1,642	431	180	251	1,419	28	1,391
1～4歳	5,998	149	5,849	728	148	580	5,270	1	5,269
5～9歳	4,361	86	4,275	544	85	459	3,817	1	3,816
10～14歳	3,024	117	2,907	455	115	340	2,569	2	2,567
15～19歳	1,705	112	1,593	373	110	263	1,332	2	1,330
20～24歳	1,881	211	1,670	559	190	369	1,322	21	1,301
25～29歳	2,796	283	2,513	812	220	592	1,984	63	1,921
30～34歳	3,703	408	3,295	1,185	343	842	2,518	65	2,453
35～39歳	4,212	483	3,729	1,428	438	990	2,784	45	2,739
40～44歳	4,098	499	3,599	1,509	483	1,026	2,589	16	2,573
45～49歳	4,022	521	3,501	1,523	512	1,011	2,499	9	2,490
50～54歳	4,820	753	4,067	1,935	744	1,191	2,885	9	2,876
55～59歳	6,879	1,097	5,782	2,787	1,082	1,705	4,092	15	4,077
60～64歳	10,872	1,823	9,049	4,388	1,796	2,592	6,484	27	6,457
65～69歳	9,680	1,599	8,081	3,981	1,547	2,434	5,699	52	5,647
70～74歳	11,153	1,830	9,323	4,267	1,756	2,511	6,886	74	6,812
75～79歳	11,737	2,207	9,530	4,715	2,119	2,596	7,022	88	6,934
80歳以上	18,595	5,909	12,686	8,774	5,559	3,215	9,821	350	9,471
不詳	616	59	557	131	54	77	485	5	480

【資料: 栃木県「医療実態調査」(平成23年)】

入院外来別、年齢階級別患者数



【資料：栃木県「医療実態調査」(平成23年)】

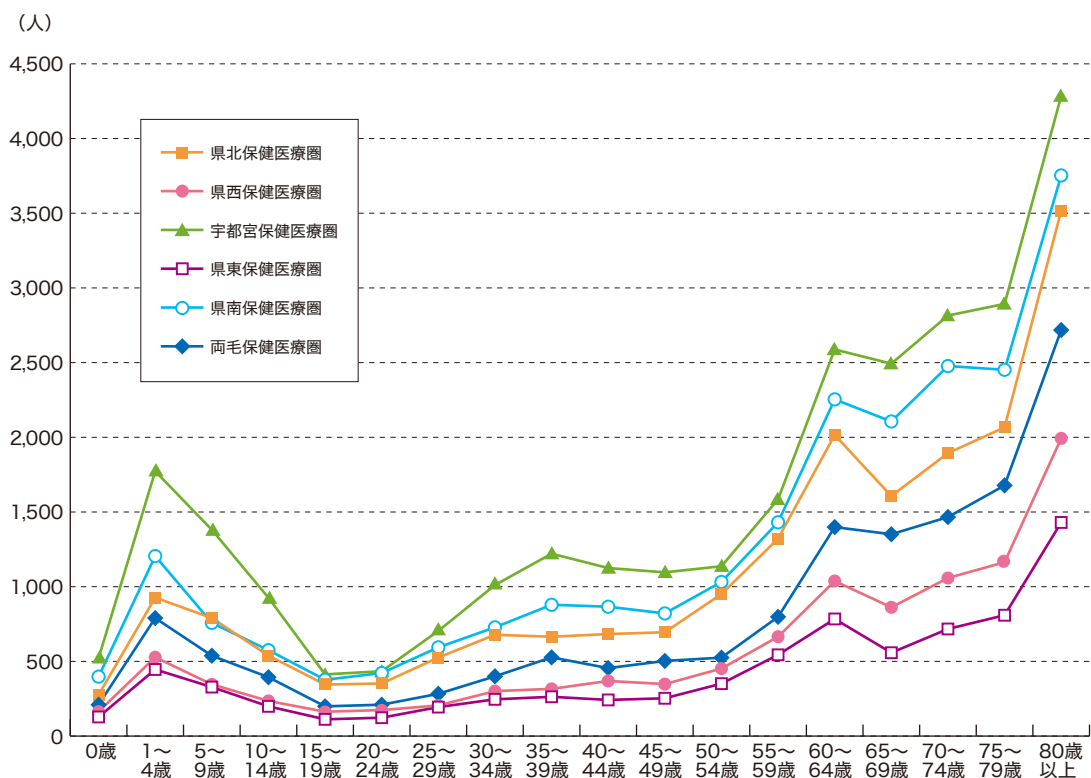
二次保健医療圏別、年齢階級別患者数(患者住所地)

(単位:人)

区分	県北 保健医療圏	県西 保健医療圏	宇都宮 保健医療圏	県東 保健医療圏	県南 保健医療圏	両毛 保健医療圏	県外・外国	不明
総数	19,977	10,453	28,519	7,759	23,245	14,511	5,427	2,111
0歳	276	164	522	128	398	210	99	53
1~4歳	927	528	1,773	446	1,205	790	165	164
5~9歳	790	346	1,381	328	758	538	112	108
10~14歳	539	235	926	199	575	394	85	71
15~19歳	345	163	413	112	377	199	67	29
20~24歳	352	174	434	123	422	210	122	44
25~29歳	526	205	704	194	594	283	236	54
30~34歳	678	301	1,011	246	728	400	278	61
35~39歳	665	316	1,221	263	879	527	279	62
40~44歳	683	369	1,125	242	866	455	278	80
45~49歳	695	348	1,096	253	821	503	225	81
50~54歳	951	452	1,137	351	1,032	525	278	94
55~59歳	1,321	665	1,585	544	1,431	798	412	123
60~64歳	2,016	1,038	2,588	784	2,254	1,399	603	190
65~69歳	1,607	862	2,493	558	2,106	1,351	541	162
70~74歳	1,894	1,058	2,815	717	2,477	1,466	514	212
75~79歳	2,067	1,164	2,893	809	2,452	1,678	482	192
80歳以上	3,517	1,993	4,284	1,430	3,753	2,718	634	266
不詳	128	72	118	32	117	67	17	65

【資料：栃木県「医療実態調査」(平成23年)】

二次保健医療圏別、年齢階級別患者数



【資料：栃木県「医療実態調査」(平成23年)】

(2) 受療率

県内患者の受療率(人口10万対)は、総数5,564であり、男女別では男性が4,953、女性が6,166となっており、女性のほうが高くなっています。

年齢階級別では、0歳が11,203、1～4歳が8,970と高くなっていますが、15歳～19歳では1,788と最も低く、その後はおおむね年齢が高くなるに従い高くなり、55歳を超えたあたりから急激に上昇しています。

入院・外来別では、入院が914、外来が4,650となっています。入院では、0歳が1,260と高く、5歳～9歳で96と最も低くなりますが、それ以降はおおむね年齢が高くなるに従い上昇しています。外来では、0歳、1～4歳の値が8～9千台と高く、その後低くなっていきますが、45歳から上昇を開始し、60歳を超えたあたりから急激に上昇しています。

入院外来別、性別、年齢階級別受療率

(人口10万対)

区分	総数			入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	5,564	4,953	6,166	914	883	945	4,650	4,070	5,222
0歳	11,203	11,427	10,964	1,260	1,386	1,125	9,943	10,041	9,839
1～4歳	8,970	9,535	8,369	223	270	173	8,747	9,265	8,196
5～9歳	4,885	5,071	4,691	96	112	80	4,789	4,959	4,611
10～14歳	3,212	3,209	3,214	124	120	129	3,087	3,089	3,086
15～19歳	1,788	1,571	2,016	118	121	114	1,671	1,450	1,902
20～24歳	2,108	1,413	2,846	236	201	273	1,872	1,212	2,573
25～29歳	2,537	1,498	3,694	256	171	352	2,281	1,327	3,343
30～34歳	2,930	2,029	3,919	323	221	435	2,607	1,808	3,484
35～39歳	2,817	2,041	3,664	323	276	375	2,493	1,766	3,288
40～44歳	2,944	2,450	3,476	359	398	316	2,586	2,052	3,160
45～49歳	3,329	2,908	3,773	431	482	378	2,897	2,426	3,395
50～54歳	3,818	3,385	4,267	596	728	459	3,222	2,657	3,808
55～59歳	4,754	4,370	5,150	758	871	641	3,996	3,499	4,509
60～64歳	6,309	6,065	6,558	1,058	1,258	854	5,251	4,808	5,704
65～69歳	8,181	7,939	8,418	1,350	1,587	1,118	6,832	6,352	7,300
70～74歳	10,812	10,578	11,025	1,775	2,099	1,480	9,037	8,480	9,545
75～79歳	13,214	13,394	13,074	2,486	2,859	2,199	10,727	10,535	10,875
80歳以上	14,046	14,843	13,641	4,466	4,457	4,470	9,580	10,386	9,171

※総数の受療率は性別・年齢不明数を除いて算出。

【資料：栃木県「医療実態調査」(平成23年)】

(3) 傷病分類別患者数、傷病分類別受療率

傷病分類別患者数(傷病分類別受療率(人口10万対))は、1位が循環器系の疾患で18,621人(931)、2位が呼吸器系の疾患で17,536人(877)、3位が筋骨格系及び結合組織の疾患で14,017人(701)となっています。

入院・外来別に見ると、入院では、1位が精神及び行動の障害で4,219人(211)、2位が循環器系の疾患で3,478人(174)、3位が新生物で2,035人(102)となっています。

外来では、1位が呼吸器系の疾患で16,121人(806)、2位が循環器系の疾患で15,143人(757)、3位が筋骨格系及び結合組織の疾患で13,242人(662)となっています。

入院外来別、傷病分類別患者数及び構成割合

区 分	患者数(人)			構成割合(%)		
	総 数	入 院	外 来	総 数	入 院	外 来
総数	112,002	18,354	93,648	100	100	100
1 感染症及び寄生虫症	2,263	210	2,053	2.0	1.1	2.2
2 新生物	5,067	2,035	3,032	4.5	11.1	3.2
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	721	143	578	0.6	0.8	0.6
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	6,896	466	6,430	6.2	2.5	6.9
5 精神及び行動の障害	7,618	4,219	3,399	6.8	23.0	3.6
6 神経系の疾患	2,591	1,140	1,451	2.3	6.2	1.5
7 眼及び付属器の疾患	6,091	191	5,900	5.4	1.0	6.3
8 耳及び乳様突起の疾患	2,117	37	2,080	1.9	0.2	2.2
9 循環器系の疾患	18,621	3,478	15,143	16.6	18.9	16.2
10 呼吸器系の疾患	17,536	1,415	16,121	15.7	7.7	17.2
11 消化器系の疾患	6,329	1,031	5,298	5.7	5.6	5.7
12 皮膚及び皮下組織の疾患	5,348	159	5,189	4.8	0.9	5.5
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	14,017	775	13,242	12.5	4.2	14.1
14 腎尿路生殖器系の疾患	5,234	706	4,528	4.7	3.8	4.8
15 妊娠、分娩及び産じょく	411	227	184	0.4	1.2	0.2
16 周産期に発生した病態	183	116	67	0.2	0.6	0.1
17 先天奇形、変形及び染色体異常	264	97	167	0.2	0.5	0.2
18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	854	127	727	0.8	0.7	0.8
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	4,625	1,325	3,300	4.1	7.2	3.5
21 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	4,760	243	4,517	4.2	1.3	4.8
その他	456	214	242	0.4	1.2	0.3

【資料：栃木県「医療実態調査」(平成23年)】

入院外来別、傷病分類別受療率

(人口10万対)

区 分	総 数	入 院	外 来
総 数	5,600	918	4,682
1 感染症及び寄生虫症	113	10	103
2 新生物	253	102	152
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	36	7	29
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	345	23	321
5 精神及び行動の障害	381	211	170
6 神経系の疾患	130	57	73
7 眼及び付属器の疾患	305	10	295
8 耳及び乳様突起の疾患	106	2	104
9 循環器系の疾患	931	174	757
10 呼吸器系の疾患	877	71	806
11 消化器系の疾患	316	52	265
12 皮膚及び皮下組織の疾患	267	8	259
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	701	39	662
14 腎尿路生殖器系の疾患	262	35	226
15 妊娠、分娩及び産じょく	21	11	9
16 周産期に発生した病態	9	6	3
17 先天奇形、変形及び染色体異常	13	5	8
18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	43	6	36
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	231	66	165
21 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	238	12	226
その他	23	11	12

※受療率は年齢不明も含めて算出。

【資料：栃木県「医療実態調査」(平成23年)】

(4) 二次保健医療圏別流入・流出割合

入院患者では、県東保健医療圏、県西保健医療圏、県北保健医療圏の他の圏域への流出割合^{※7}が高くなっています。また、県南保健医療圏、宇都宮保健医療圏の他の圏域からの流入割合^{※8}が高くなっています。

外来患者では、すべての二次保健医療圏において他の圏域への流出割合が20%を下回っています。また、県南保健医療圏の他の圏域からの流入割合が20%を超え、高くなっています。

病院の入院患者数(全病床)、流入・流出割合

患者住所地 施設所在地	総数	県北	県西	宇都宮	県東	県南	両毛	県外・外国	流入割合
総数	17,996	3,339	2,016	4,295	1,327	3,274	2,072	1,673	
県北	2,902	2,529	60	108	55	34	3	113	12.9%
県西	1,650	40	1,341	106	9	81	14	59	18.7%
宇都宮	5,470	508	334	3,519	229	379	38	463	35.7%
県東	924	5	4	30	799	27	1	58	13.5%
県南	4,650	252	265	521	223	2,608	151	630	43.9%
両毛	2,400	5	12	11	12	145	1,865	350	7.7%
流出割合		24.3%	33.5%	18.1%	39.8%	20.3%	10.0%		

※不明(358)を除く。

病院の入院患者数(一般病床+療養病床)、流入・流出割合

患者住所地 施設所在地	総数	県北	県西	宇都宮	県東	県南	両毛	県外・外国	流入割合
総数	13,140	2,554	1,495	3,097	895	2,371	1,599	1,129	
県北	2,188	1,911	53	72	42	27	3	80	12.7%
県西	1,110	29	974	37	5	28	8	29	12.3%
宇都宮	3,600	371	209	2,479	119	175	14	233	31.1%
県東	582	0	1	18	521	16	0	26	10.5%
県南	3,847	240	246	485	199	2,010	125	542	47.8%
両毛	1,813	3	12	6	9	115	1,449	219	20.1%
流出割合		25.2%	34.8%	20.0%	41.8%	15.2%	9.4%		

※不明(208)を除く。

外来患者数、流入・流出割合

患者住所地 施設所在地	総数	県北	県西	宇都宮	県東	県南	両毛	県外・外国	流入割合
総数	91,895	16,638	8,437	24,224	6,432	19,971	12,439	3,754	
県北	15,323	14,623	88	234	75	23	46	234	4.6%
県西	7,207	52	6,864	155	3	82	5	46	4.8%
宇都宮	25,696	1,120	833	22,281	523	679	26	234	13.3%
県東	6,039	86	4	172	5,389	149	0	239	10.8%
県南	24,126	754	642	1,371	435	18,655	299	1,970	22.7%
両毛	13,504	3	6	11	7	383	12,063	1,031	10.7%
流出割合		12.1%	18.6%	8.0%	16.2%	6.6%	3.0%		

※不明(1,753)を除く。

【資料：栃木県「医療実態調査」(平成23年)】

※7 (当圏域外の医療施設で受療した当圏域内に居住する患者数/当圏域内に居住する患者数)×100

※8 (当圏域内の医療施設で受療した当圏域外に居住する患者数/当圏域内の医療施設で受療した患者数)×100

3 医療資源の状況

(1) 病院

平成23年の医療施設調査によると、平成23(2011)年10月1日現在の本県の病院数は109施設、病床数は21,694床となっています。

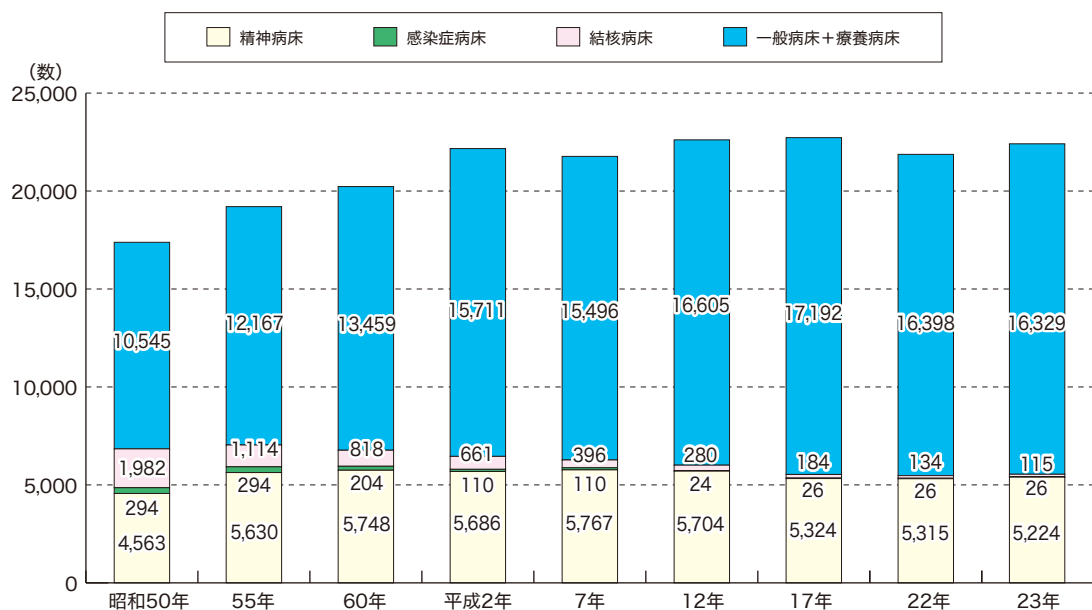
人口10万人あたりでは、施設数が5.5、一般病床及び療養病床の病床数が816.5となっており、全国の施設数の6.7、一般病床及び療養病床数の962.0に比べ、施設数で1.2、病床数で145.5下回っています。

病院の施設数及び病床数の推移

年次	実数						人口10万対	
	施設数	病床数					施設数	一般病床+療養病床数
		総数	精神病床	感染症病床	結核病床	一般病床+療養病床		
昭和50年	128	17,384	4,563	294	1,982	10,545	7.5	621.0
55年	139	19,205	5,630	294	1,114	12,167	7.7	678.9
60年	134	20,229	5,748	204	818	13,459	7.1	721.2
平成2年	138	22,168	5,686	110	661	15,711	7.1	811.9
7年	121	21,769	5,767	110	396	15,496	6.1	780.9
12年	119	22,613	5,704	24	280	16,605	5.9	828.3
17年	118	22,726	5,324	26	184	17,192	5.9	852.5
22年	110	21,873	5,315	26	134	16,398	5.5	816.8
23年	109	21,694	5,224	26	115	16,329	5.5	816.5

【資料：厚生労働省「医療施設調査」】

病院の病床の種類別病床数の推移



【資料：厚生労働省「医療施設調査」】

(2) 一般診療所

平成23年の医療施設調査によると、平成23(2011)年10月1日現在の本県の一般診療所数は1,411施設(うち有床診療所164施設)、病床数は2,273床となっています。

人口10万人当たりでは、施設数が70.6、病床数が113.7となっており、全国の施設数の77.9、病床数の101.2に比べ、施設数は7.3下回りますが、病床数は12.5上回っています。

一般診療所の施設数及び病床数の推移

年次	実数		人口10万対	
	施設数	病床数	施設数	病床数
昭和50年	900	4,013	53.0	236.3
55年	954	4,747	53.0	263.9
60年	986	4,792	52.3	254.4
平成2年	1,020	4,699	52.7	242.2
7年	1,190	4,841	60.0	243.9
12年	1,287	4,199	64.2	209.4
17年	1,372	2,900	68.0	143.8
22年	1,421	2,466	70.8	122.8
23年	1,411	2,273	70.6	113.7

【資料：厚生労働省「医療施設調査」】

(3) 歯科診療所

平成23年の医療施設調査によると、平成23(2011)年10月1日現在の本県の歯科診療所数は982施設となっています。

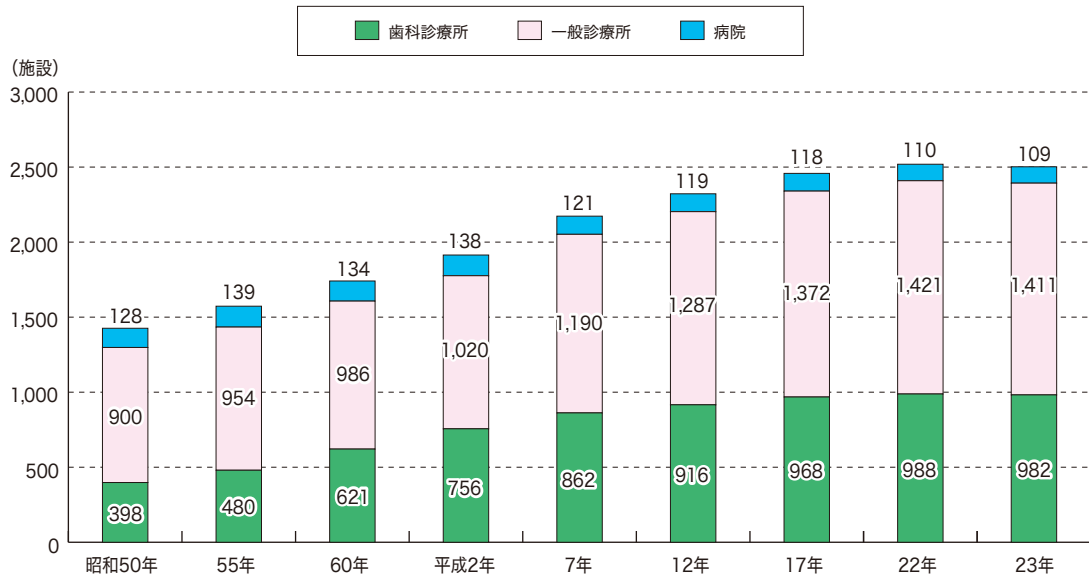
人口10万人当たりの施設数は49.1となっており、全国の53.3に比べ4.2下回っています。

歯科診療所の施設数及び病床数の推移

年次	実数		人口10万対
	施設数	病床数	施設数
昭和50年	398	9	23.4
55年	480	12	26.7
60年	621	12	33.0
平成2年	756	3	39.1
7年	862	3	43.4
12年	916	—	45.7
17年	968	—	48.0
22年	988	—	49.2
23年	982	—	49.1

【資料：厚生労働省「医療施設調査」】

医療施設数の推移



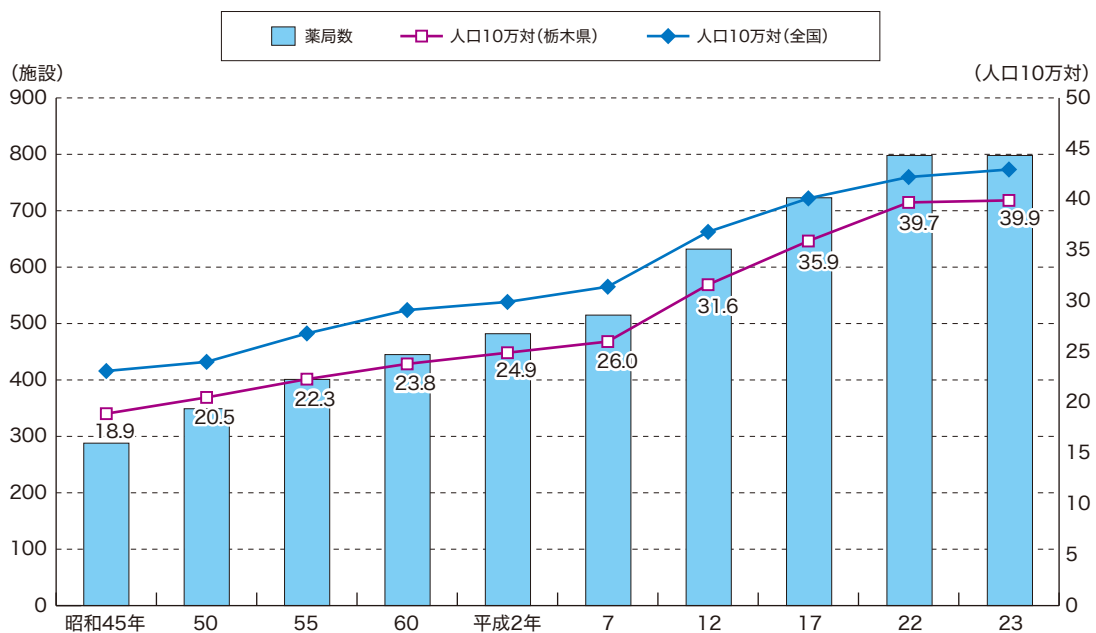
【資料：厚生労働省「医療施設調査」】

(4) 薬局

平成23年度の衛生行政報告例によると、平成24(2012)年3月31日現在の本県の薬局数は798施設となっています。

人口10万人当たりの薬局数は39.9となっており、全国の42.9に比べ3.0下回っています。

薬局数の推移

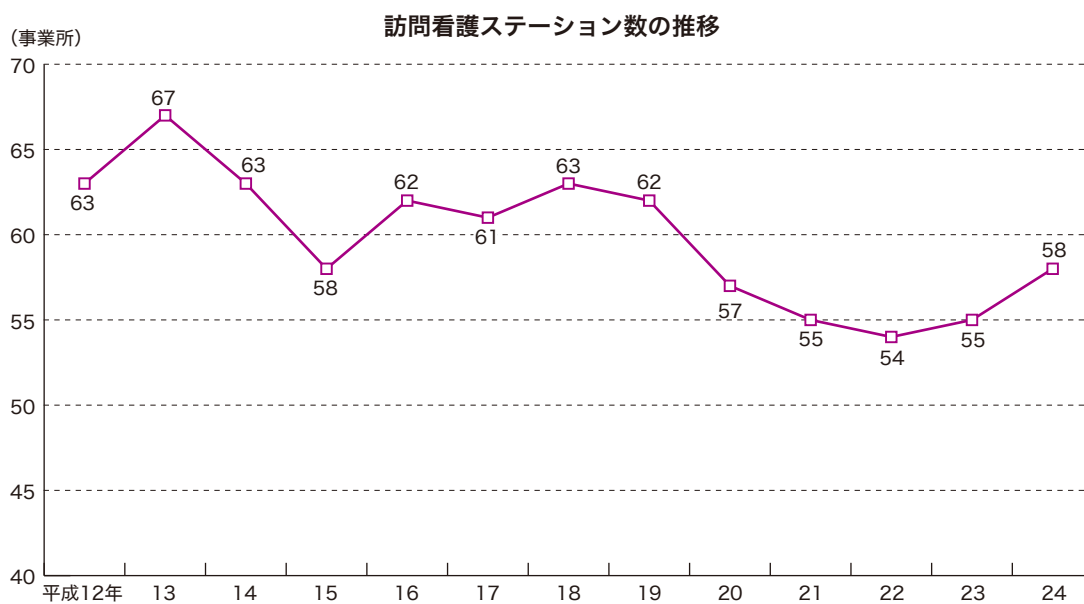


【資料：厚生労働省「衛生行政報告例」】

(5) 訪問看護ステーション

平成24(2012)年4月1日現在の本県の訪問看護ステーションの数は58事業所となっています。

人口10万人当たりの事業所数は2.9となっています。



【資料: 栃木県高齢対策課調べ】

(6) 保健所・市町村保健センター

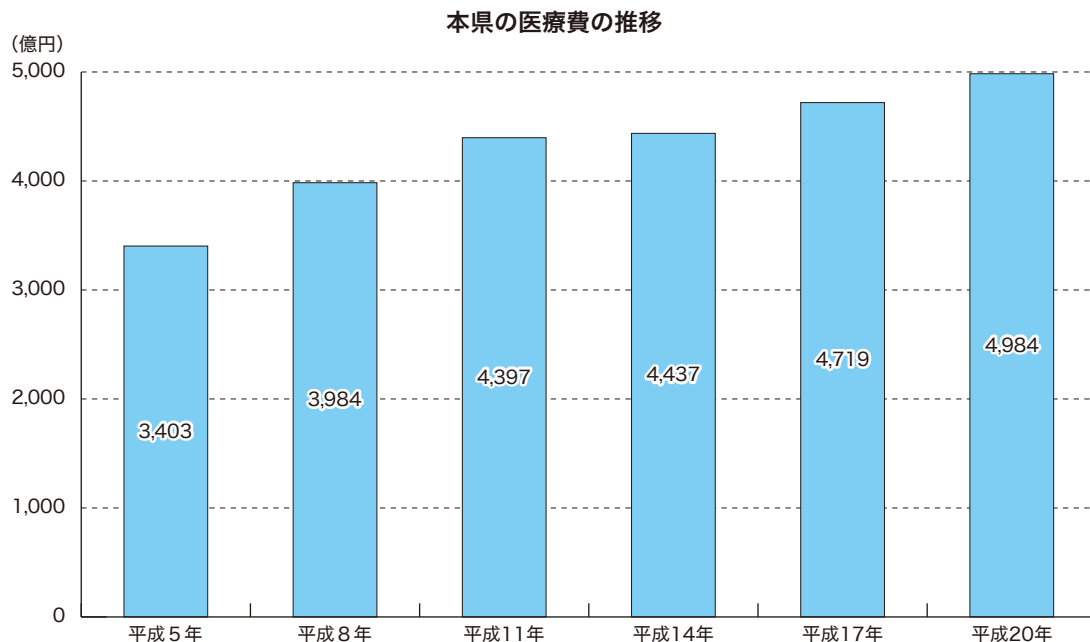
平成24(2012)年4月1日現在の本県内の保健所の数は6か所、市町村保健センターの数は40か所となっています。

4 医療費の状況

厚生労働省が3年に一度公表している、国民医療費の都道府県別医療費によれば、本県の医療費は、平成5年度には3,403億円でしたが、平成20年度には4,984億円となり、15年間で1,581億円、46.5%増加しています。この伸び率は、同年度間の国民医療費全体の伸び率42.9%と比較して、3.6ポイント高くなっています。

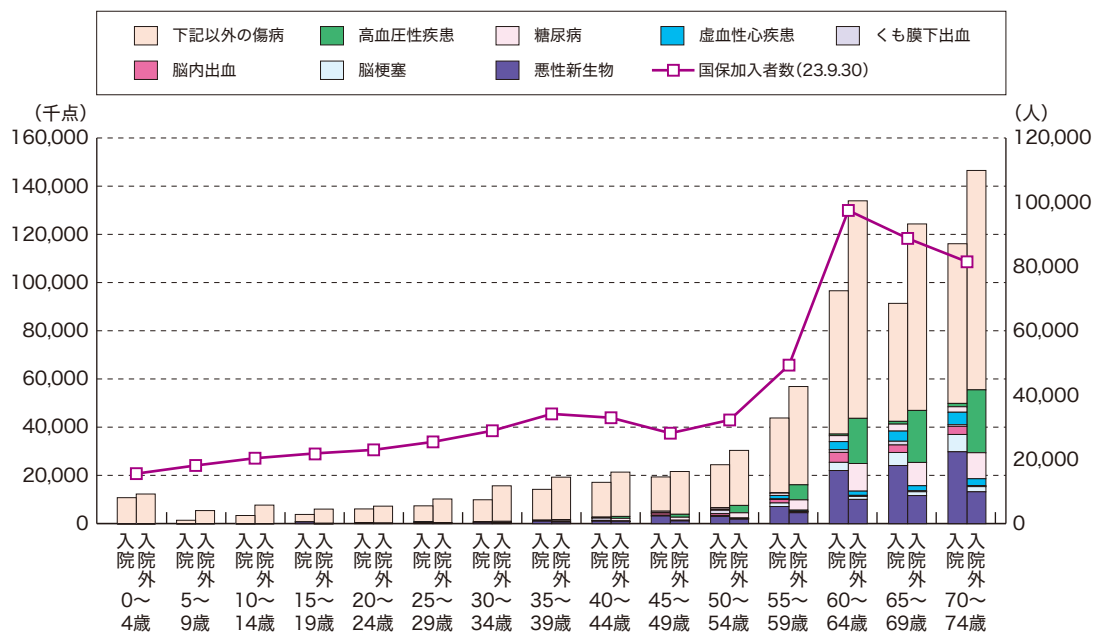
また、本県の一人当たり医療費は248千円で、全国平均の273千円より少なくなっています。これを、入院・外来別に見ると、本県は、入院は85千円で、全国平均の100千円より少ないものの、外来は104千円で、全国平均の103千円より多くなっています。

栃木県国民健康保険団体連合会が、平成23年6月審査分として取扱った県内全保険者（市町）に係る国民健康保険のレセプト（医科・歯科）によると、30歳代から糖尿病、40歳代から高血圧性疾患や脳血管疾患、50歳代から脂質異常症や虚血性心疾患の医療費が増え始めるなど、年齢が高くなるにつれて医療費に占める生活習慣病の割合が高くなっています。



【資料：厚生労働省「国民医療費」都道府県別医療費】

本縣市町村国保における生活習慣病に着目した年齢階級別入院・入院外医療費



【資料：栃木県国民健康保険団体連合会「平成23年度国民健康保険疾病分類統計表・平成23年6月審査分」に基づき栃木県作成】

本県の後期高齢者医療受給対象者の数及び後期高齢者医療費の額は、昭和58年度の老人保健制度の施行以降、増加傾向にありましたが、平成12年度に介護保険制度が導入され、老人保健施設療養費等が廃止されたため、後期高齢者医療費は減少しています。

また、平成14年度から対象年齢が70歳以上から75歳以上に5年間で段階的に上げられ、対象者数が減少した結果、平成14年度以降、後期高齢者医療費は減少傾向にありました。

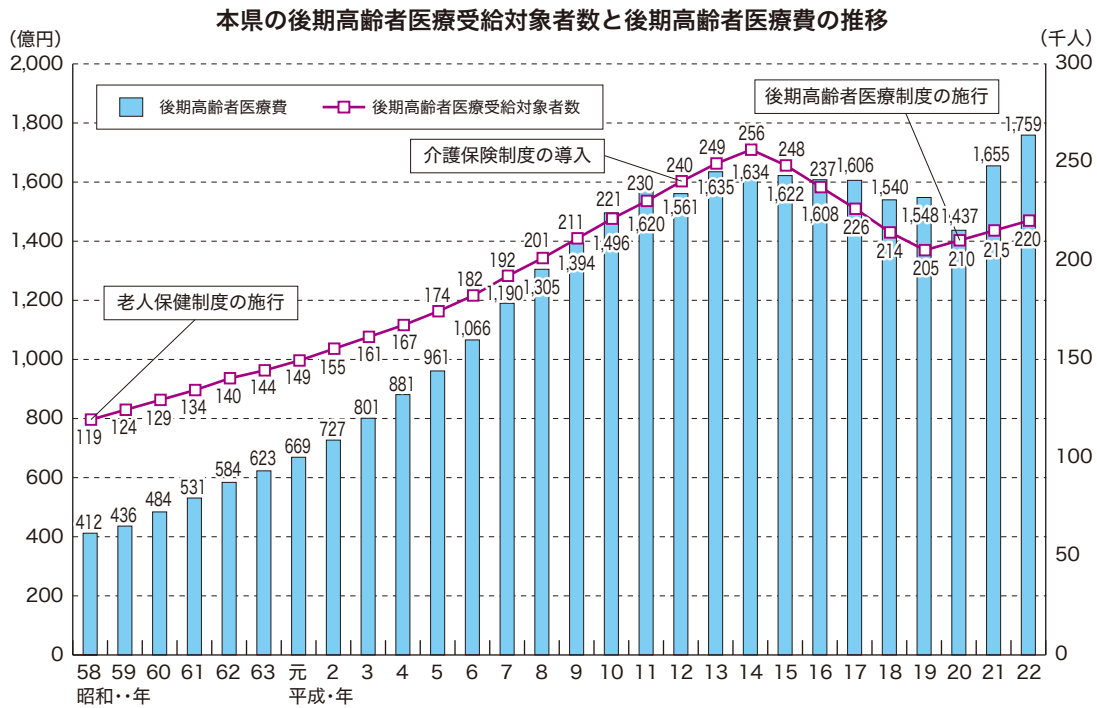
その後、高齢化の進行に伴う医療費の増大が見込まれる中、高齢者と若年世代の負担の明確化を図る観点から、平成20年度に75歳以上を対象にした後期高齢者医療制度が施行されました。施行後、後期高齢者の数は年々増加し、後期高齢者医療費の額も増加しています。

平成22年度の状況を昭和58年度の制度施行時と比較すると、後期高齢者の数は約2倍、後期高齢者医療費の額は約4倍となっています。

本県の一人当たり後期高齢者医療費は、老人保健制度の施行以来、一貫して全国平均を下回っており、平成22年度では本県は798,162円、全国平均は904,795円となっています。しかしながら、老人保健制度施行時と平成22年度とで比較すると、約2倍に増加しています。

また、入院、外来及び歯科別に見ると、本県はいずれも全国平均を下回っています。特に入院に係る医療費は、全国と比べて74,798円少なくなっています。

栃木県国民健康保険団体連合会が平成23年6月審査で決定した後期高齢者医療診療報酬明細書(医科・歯科)に基づく疾病別分類によると、高血圧性疾患、悪性新生物、脳梗塞、糖尿病といった生活習慣病の占める割合が高くなっています。



本県の一人当たり後期高齢者医療費(入院・外来・歯科別)

	本 県	全 国
一人当たり後期高齢者医療費	798,162円(38位)	904,795円
うち入院医療費	380,434円(39位)	455,232円
うち外来医療費	386,376円(32位)	407,436円
うち歯科医療費	21,714円(37位)	28,342円

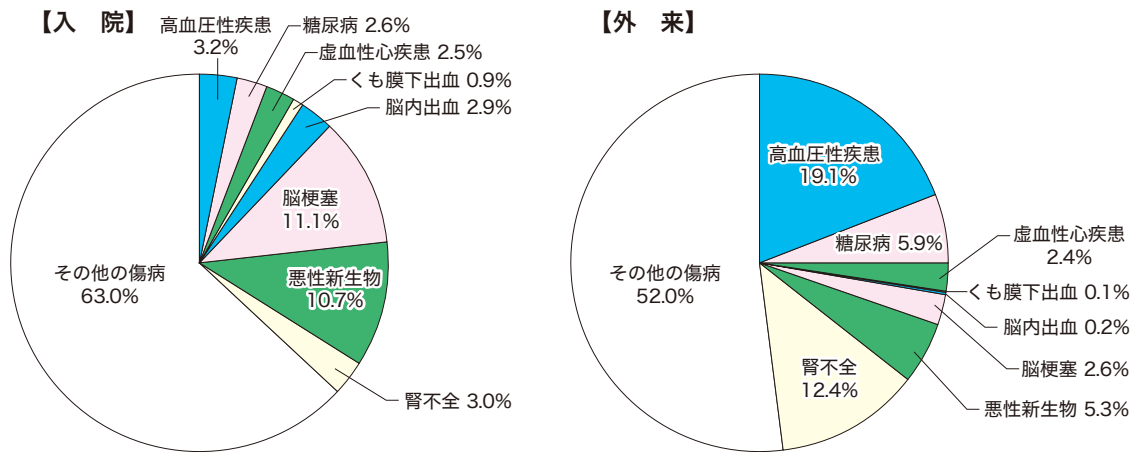
(注) 入院医療費には医科の入院時食事療養・生活療養費を、外来医療費には調剤費を、歯科医療費には歯科の入院時食事療養・生活療養費を含む。
()内は全国における順位。

【資料:厚生労働省保険局「平成22年度後期高齢者医療事業年報」】

疾病別の医療費については、入院では、脳梗塞に係る医療費が最も高く11.1%を占め、次に、悪性新生物に係る医療費が10.7%を占めています。

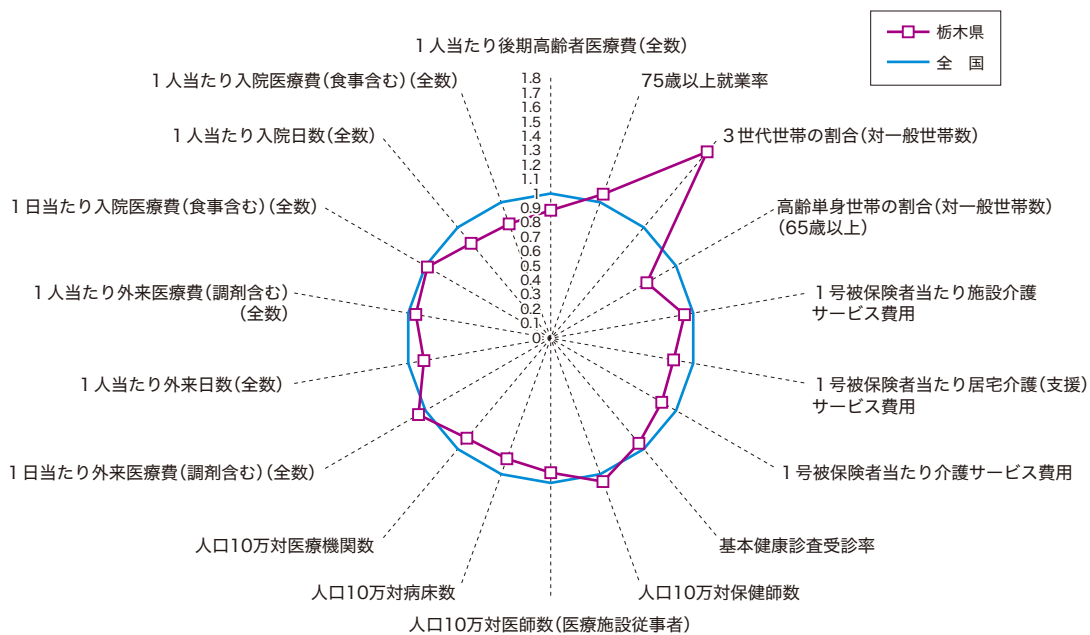
一方、外来では、高血圧性疾患に係る医療費が最も高く19.1%を占め、次に、腎不全に係る医療費が12.4%を占めています。

本県の疾病別後期高齢者医療費



【資料：栃木県後期高齢者医療広域連合「平成23年度後期高齢者医療疾病分類統計表・平成23年6月審査分」に基づき栃木県作成】

後期高齢者医療費と関連する事項(全国との比較)



【資料：厚生労働省「後期高齢者医療事業年報」等により栃木県作成】